

住宅火災における避難に関する検討会（第2回）

議事要旨

1 日時：令和3年11月26日（金） 10時00分から12時00分まで

2 場所：岡山市北消防署防災研修室

3 出席者

・委員等（敬称略、順不同）

松多委員（座長）、竹内委員（副座長）、水口委員、田中委員代理（太田）、湊田委員代理（丸川）、加藤委員代理（三神）、NHK勝呂アナウンサー（オブザーバー）、岡山大学大学院岡崎講師（オブザーバー）

・事務局

消防局予防課齋藤課長補佐以下6名

4 配付資料

資料1-1 検討会設置要綱

資料1-2 委員等名簿

資料2 予防広報発表会について

資料3 VRを活用した軌跡データの検証結果（中間発表）について

資料4 住宅火災における避難のアンケート結果について

資料5 避難カードゲームのモデル検証結果について

資料6 全国と比較した岡山市消防局管内の火災状況について

資料7 消防職員が行う火災予防広報に対する市民の反応（エビデンス）の結果について

資料8 過去の火災事例について（岡山豊学校寄宿舎火災及び他都市での火災）

資料9 岡山市消防局で作成した動画の整理表（避難に関係する内容）について

資料10 検討会3回目の予定について

5 議事内容（○：委員発言、●：事務局発言、◎：オブザーバー発言）

（1）火災調査の分析結果を基にした効果的な広報発表会について

●火災予防広報発表会を実施（委員及びオブザーバーの意見は別添のとおり）

（2）VRを活用した軌跡データの検証結果について

◎資料3により説明を行った。

○データはすごくわかりやすかった。つまるところ、避難を促す環境、もしくはその音声に工夫をこらす、設置場所の工夫を凝らすことが大事である。警報器について、何うが、設置

する基準として、玄関に設置するのはどうか。

●義務で玄関につけられているという事はない。

○ただ住民の意向で、玄関の方向は音でわかるという所に結びつけていくのであれば、音の方向に行くことを促すことができるのではないかなと思った。

◎確かにどこに設置するかは非常に大きかったと思う。鳴っている方向に行きそうだなと思った。ぜひ実施してみたいと思う。

●補足として、病院や老人ホームなどの非常口に設置されている誘導灯において、光のようなもので避難を促す設備はある。

○災害時の避難でも、実は避難指示なんかよりも、アルミ工場が爆発したとか、非日常をきっかけで避難する人が多くなるということがあった。どういうものが避難のきっかけになるのかが、1つのテーマになるのではないかなと思う。若齢群は、火事があったら逃げなさいと、小、中、高校の時に刷り込まれている。一方で、高齢群は、家は自分の持ち物として執着のようなものがあり結果に違いがでていっているのではないかなと思った。結構面白い結果だと思う。期待する。

(3) 住宅火災における避難のアンケート結果について

●資料5により説明を行った。

○大変面白い取組で、我々にとっても大切なことだと思う。実際の被験者も自分たちの家でやってみて気づいたことも多いのではないかなと思う。中身について、意見または、質問等はあるか。

○14ページ下の部分で、家族の人数に関わらず昼間であれば、個人個人が自分で行動したということだと思うが、夜になると急に避難時間が増えているという事は、昼間と違う行動をしたのではないかなと推察する。その理由は何かわかるか。

●16ページのテキスト分析の部分にヒントがあると思う。例えば、「弟の居場所がわからなかったため」という結果があった。姿が見えないということで、助けようとしたか、確認しようとしたのではないかと推察する。あくまでテキストだけの情報であるが、そのような傾向は見受けられるではないか。

○その辺りに時間を減らすヒントがあるのではないかなと思う。

○この結果を今後どのように使っていくのか。何か考えていることはあるか。

●避難のガイドラインを作っていこうと考えているが、その時間の目安として、昼間であれば平均的にこのぐらいの時間がかかるというものを示そうと思う。ただ、そのあたりも委員のみなさまと相談させていただく。

○避難にどれぐらいかかったといった時に、知識がない人からすると、火が出てからどのぐらいの時間で、何が起きるのかというところがわからない。これらを、一緒に示していただくと、どれぐらい遅れると助からないということがわかるかと。時間と一緒にどのぐらいのタイムスケジュールで火災や煙が進んでいくのかという話もあれば良いと思う。

●1つ映像をご紹介します。耐火の建物で、ビールケース1つを燃やしている11分程度の映

像である。炎だけではなくて煙も含めてどのような状況になるか、という部分が具体的なイメージとして伝わるのではと思う。このような燃焼実験を消防機関は行っており、何分たつとどのくらいの炎になるのかという部分は、1ケースの状況にはなるが用意できると思う。

(4) 避難カードゲームのモデル検証結果について

●資料5により説明を行った。

(5) その他住宅火災における避難に関して必要なことについて

●資料6、7、8、参考資料1、2、3により説明を行った。

○様々な情報が挙がったが、何か質問等あるか。

○データは非常にわかりやすかった。地域のどういったことをお伝えすべきかという部分で非常によい情報だと思う。

○例えば聾学校寄宿舎の火災であるとか、過去の火災についてどう教訓として役立てていくのかというと、先ほどの予防広報発表会もそうだったが、夜中の2時に火災で亡くなる方が多いとかの話題をどう連動していくのか。

○本日の予防広報発表会時に、私は、現場のことがわかるような話をしていただければ伝わるのではと話をした。例えば、火災現場の映像や写真といったものを、特に、亡くなった方がいない現場で、うまく避難はできたけれど、建物が燃えてしまったような、火災現場の映像などを、火災を予防するために使用はできないか。

●基本的には個人情報が入ってしまうのと、火災は失火など、人の行為が入っているので、外には出すことはできない。

○過去の映像とかで、当たり障りのないところでも難しいか。

●個人情報保護の関係からいずれにしても、ハードルは高いと思う。そのために、先ほどご紹介した、模擬の家屋を燃やすといったことになってくるのだと思う。

○交通事故だと映像の使用はよくある。あれはなぜ使用が可能なのか。状況的にはかなり個人情報が含まれており、自分の事故だと気づくようなケースもあると思うが。

●警察がどうしているのかはわからないが、火災の現場は、家の中にあるものなどプライベートな部分が多く含まれるので難しいと思う。

○人がよくわかるものに落とし込んでいく方法や仕組みを作っていければいいのではないかと思う。